

山形大と地域連携3年目

医学生、卒業前に一般病院へ

医師をいかにして育て、地域に根づかせるか―。山形大医学部が卒業前に行う臨床実習を県内の中核病院が担う「県広域連携臨床実習」は、スタートから3年目を迎えた。地方の医師不足が指摘される中で、大学と県内の中核病院との新しい関係が模索されている。

【前田洋平】

山形大医学部では2009年から、実践能力のある医師を養成するため、一定の水準に達した4年生を「スチューデント・ドクター」と認証し、付属病院で臨床実習を行っている。この認証を受けた5年生約120人を地域の中核病院が受け入れ、実践経験を積ませるのが県広域連携臨床実習だ。実習生の受け入れは病院側の負担も大きく、12年の開始時、実習生の受け入れ先として手を挙げ

たのは山形市立病院済生館など3病院にとどまった。しかし、翌年には12病院に拡大、今年にはさらに2病院が加わり、14病院が参加するまでに広がった。医学部生にとっては、地域の病院で幅広い症例に取り組み、実践的な教育を受けることができる。県や地域の中核病院は、地域医療のやりがいや実情を知ってもらい、将来の担い手を育てる狙いがある。

臨床実習受け入れ先拡大

「県内の医師定着に効果」



「県広域連携臨床実習」は3年目を迎え、山形大医学部は新たに県立河北病院と東北中央病院の2病院と協定を交わした一同大医学部で

実際に、昨年は16人の学生が、卒業後の研修先に実習を受けた地方の病院を選んだという。県健康

康福祉部の大泉享子部長は「県内への医師定着への効果が出ている」と期待を込める。

ただ、医師を定着させるには、病院側の努力や責任も大きい。

山形大関連病院会会長の栗谷義樹理事長は「実習に来た学生に、私たちが地域の病院の意義や魅力をいかに見せられるかが定着の鍵」と語る。「実習生を教える医師は、実習生に多くの症例に触れさせ、技術を伝える力量が求められる」と話す。

山形大関連病院会会長の栗谷義樹理事長は「実習に来た学生に、私たちが地域の病院の意義や魅力をいかに見せられるかが定着の鍵」と語る。「実習生を教える医師は、実習生に多くの症例に触れさせ、技術を伝える力量が求められる」と話す。

栗谷理事長は「私たちが」として大学はこれまで『医師をよこしてくれ』と頼むだけの関係だった。卒業前の大切な実習を担うことで、病院にも誇りが出てきて気持ちが大きく変わりつつあるという。

山形大関連病院会会長の栗谷義樹理事長は「実習に来た学生に、私たちが地域の病院の意義や魅力をいかに見せられるかが定着の鍵」と語る。「実習生を教える医師は、実習生に多くの症例に触れさせ、技術を伝える力量が求められる」と話す。

栗谷理事長は「私たちが」として大学はこれまで『医師をよこしてくれ』と頼むだけの関係だった。卒業前の大切な実習を担うことで、病院にも誇りが出てきて気持ちが大きく変わりつつあるという。

山形大関連病院会会長の栗谷義樹理事長は「実習に来た学生に、私たちが地域の病院の意義や魅力をいかに見せられるかが定着の鍵」と語る。「実習生を教える医師は、実習生に多くの症例に触れさせ、技術を伝える力量が求められる」と話す。

栗谷理事長は「私たちが」として大学はこれまで『医師をよこしてくれ』と頼むだけの関係だった。卒業前の大切な実習を担うことで、病院にも誇りが出てきて気持ちが大きく変わりつつあるという。

山形大関連病院会会長の栗谷義樹理事長は「実習に来た学生に、私たちが地域の病院の意義や魅力をいかに見せられるかが定着の鍵」と語る。「実習生を教える医師は、実習生に多くの症例に触れさせ、技術を伝える力量が求められる」と話す。

栗谷理事長は「私たちが」として大学はこれまで『医師をよこしてくれ』と頼むだけの関係だった。卒業前の大切な実習を担うことで、病院にも誇りが出てきて気持ちが大きく変わりつつあるという。

る内容もほとんど変わる。大病院が実習先の多くの病院と変化の内容を共有するのは容易ではない」と指摘する。一方で「大学と地域の中核病院が努力して情報共有を深めることで、学生指導を超えた連携強化につながる」という意見もあり、こうした連携を通じて県内全体の医療の質を上げていく狙いもある。

山下医学部長は「山形で優秀な医師を育て、未永く山形に残ってもらおう。地域で満遍なく高度な医療を提供できるシステム作りの試金石」と位置づける。

栗谷理事長は「私たちが」として大学はこれまで『医師をよこしてくれ』と頼むだけの関係だった。卒業前の大切な実習を担うことで、病院にも誇りが出てきて気持ちが大きく変わりつつあるという。

栗谷理事長は「私たちが」として大学はこれまで『医師をよこしてくれ』と頼むだけの関係だった。卒業前の大切な実習を担うことで、病院にも誇りが出てきて気持ちが大きく変わりつつあるという。

栗谷理事長は「私たちが」として大学はこれまで『医師をよこしてくれ』と頼むだけの関係だった。卒業前の大切な実習を担うことで、病院にも誇りが出てきて気持ちが大きく変わりつつあるという。

栗谷理事長は「私たちが」として大学はこれまで『医師をよこしてくれ』と頼むだけの関係だった。卒業前の大切な実習を担うことで、病院にも誇りが出てきて気持ちが大きく変わりつつあるという。